



かりがね



【目指す学校像】
活力が満ち、
さわやかで
心なごむ学校

生徒数 145 名 (1 年生 49 名 2 年生 47 名 3 年生 49 名)

令和 8 年 5 月 1 日

『一生なくならない自信』

校 長 武 井 理

満開の桜に見守られ、令和 8 年度がスタートしました。4 月は多くの学校行事がありましたが、そのどれもが生徒主体の取組でした。各行事を担当する生徒たちのプレゼンテーションには独自の工夫が見られ、最後まで興味深く見守ることができました。着実に力をつけてきている姿を、心強く感じています。季節は 5 月に入り、まばゆい新緑が校庭を彩る頃となりました。現在は、体育祭に向けた大縄跳びの練習が始まり、校庭から聞こえる元気な掛け声が、学校にさらなる活気をもたらしています。

さて、去る 4 月 26 日 (日)、久喜市総合体育館において「埼玉県バレーボール協会長杯争奪中学生バレーボール大会」が開催されました。予選を勝ち抜き出場した本校女子バレーボール部は、見事 1 回戦を突破。2 回戦はフルセットの末、惜しくも敗れましたが、一人ひとりの選手が最後まで諦めずに輝く姿は感動的でした。今後は、5 月 14 日 (木) の通信陸上競技大会予選会を皮切りに、各運動部の大会が本格化します。大会が待ち遠しいです。

現在、部活動を巡る環境には様々な課題がありますが、私が考える部活動の意義は、大会結果や競技技術の向上以上に、「社会を生き抜くための土台作り」にあると考えます。例えば、日々の練習で自分に何が必要かを考え、メニューを工夫するプロセスや、試合の結果を受けて、さらに練習メニューを工夫するプロセスは、社会に出てから直面する「課題解決能力」を養います。また、たとえ選手になれなくても腐らずに練習し、部の一員としてチームを支える経験は、組織における「献身性や役割の重要性」を学ぶ貴重な機会となります。さらに、仲間と心をひとつにして取り組む練習を通じて、「協調性」や「責任感」が身に付きます。こうした経験は、将来の受験や就職するときの活動においても、「困難に直面した際にどう動いたか」という具体的なエピソードとして、自分の強みを裏付けることとなります。部活動を頑張ることは、スポーツや芸術の枠を超えて、「自分自身の価値を高め、一生なくなる事のない自信を手に入れるため」とも考えられます。芳野中学校では、こうした「一生なくならない自信」を育む指導を大切にしていきたいと思います。

最後になりますが、4 月中に生徒の皆さん並びに保護者の皆様に多大なるご不安とご迷惑をおかけしましたことを、深くお詫び申し上げます。このことを重く受け止め、全教職員が一丸となって、信頼回復に全力で努めてまいります。今後とも本校の教育活動にご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。